



政治専攻「演習1・2」

第2期第2次募集



【目次】

1. 募集について
2. 募集に関する注意事項
3. 選考方法
4. ゼミ内容
 - 上神 貴佳 先生
 - 小原 薫 先生
 - 菊田 真司 先生
 - 坂本 一登 先生
 - 佐藤 俊輔 先生
 - 芝崎 祐典 先生
 - 羅 芝賢 先生
 - 藤嶋 亮 先生
 - 宮下 大志 先生

1. 募集について

【第2期募集スケジュール】

第 1 次 募 集	
終了しました。	

第 2 次 募 集	
応 募 期 間	2024年1月6日（土）12時～1月12日（金）12時50分
選 考 期 間	2024年1月15日（月）～1月20日（土）
合 否 発 表	2024年1月24日（水）20時予定 / K-SMAPYIIにて

【応募方法】

K-SMAPYII より

※ログイン後、上部バナー「アンケート」より応募してください。

※K-SMAPYIIからの応募がなく面接を受けるまたは課題提出だけをしているケースがありましたので必ずK-SMAPYIIからの応募も行ってください。応募がない場合は無効になります。

[【目次に戻る】](#)

2. 募集に関する注意事項

※ 必ず、別紙「政治専攻「演習」第2期第2次募集について(現1・2年生向け)」および「政治専攻「演習Ⅱ」第2期第2次募集について(現3年生向け)」もよく読んで応募してください。

- (ア) 応募期間に必ず応募してください。応募期間外の応募は認められません。
- (イ) K-SMAPYⅡからの応募がなく、面接を受ける、または課題の提出だけをしているケースがありましたので、必ずK-SMAPYⅡから応募も行ってください。
- (ウ) 担当教員によって選考方法（面接・レポート・テストなど）は異なります。「選考方法」で必ず内容を確認のうえ、応募してください。
- (エ) 毎年ありますが、提出期限を超えたりレポートの提出は認められませんし、面接時間への遅刻・面接の欠席に関する取り次ぎは教務課では行いません。
- (オ) ゼミに合格後、他のゼミへの変更はできません。
- (カ) 各教員の連絡先は個人情報のため、お教えできません。
- (キ) ゼミ応募に関する問い合わせ先は以下のとおりです。

【問い合わせ先】

教務課	①9時～12時50分 ②13時50分～20時30分
法学資料室（若木タワー7階）	①9時～17時

※月曜日～金曜日で受け付けます。

※日曜日・祝日は学年暦に準じ、授業実施日に限り開室いたします。

[【目次に戻る】](#)

3. 選考方法

希望する教員の選考方法を確認してください。

例年、レポートの提出期限や面接日時を間違えているケースがありますので、ご注意ください。

教員名	募集対象	選考方法	提出方法・レポート締切		レポート内容	備考
			提出方法	締切日時	面接日時	
稲垣 浩	募集なし					
上神 貴佳	・現在当該ゼミ履修中の現3年生	レポート	提出方法	アンケート画面で回答	本演習を志望する理由 (メールアドレスを記入すること)	(書式)自由 (字数)1,000字
			締切日時	1月12日(金)12:50		
小原 薫	・現2年生 ・現在当該ゼミ履修中の現3年生	レポート	面接時持参		最近関心のある、政治、社会問題と、小原ゼミへの志望理由	(書式)自由 (字数)800字程度
		面接	1月16日(火)12:00～12:50	若木タワー8階 0801 研究室	現ゼミ生はレポート・面接ともに免除	
菊田 真司	・現2年生 ・すべての現3年生	レポート	面接時持参		自己紹介とゼミの志望理由	(書式)A4 (字数)1,000字程度
		面接	1月16日(火)12:10～	若木タワー7階 0712 研究室		
坂本 一登	・現在当該ゼミ履修中の現3年生	選考免除（募集のみ）				
佐藤 俊輔	・現2年生 ・現在当該ゼミ履修中の現3年生	レポート	提出方法	メール送付 s.sato@ kokugakuin.ac.jp	①演習への志望動機 ②関心を持っている国際関係上の事象・主題について	(書式)WordファイルにてA4, 横書き (字数)①、②を合わせ1,200字
			締切日時	1月12日(金)12:50		

[【目次に戻る】](#)

教員名	募集対象	選考方法	提出方法・レポート締切		レポート内容	備考
			面接日時		面接方法	
芝崎 祐典	・現在当該ゼミ履修中の現3年生	レポート	提出方法	教員に直接渡すこと	今まで力を入れて勉強してきたこと	(書式)Word (字数)800字
羅 芝賢	・現2年生 ・現在当該ゼミ履修中の現3年生	レポート	提出方法	メール送付 j-na@ kokugakuin.ac.jp	①これまで読んだ政治・行政に関する本の中で、最も興味深かったものとその理由、②ゼミ志望理由	(書式)A4・Word (字数)800～ 1,000字
			締切日時	1月12日(金)12:50		
藤嶋 亮	・現在ゼミ履修中の現3年生	選考免除（募集のみ）				
宮下 大志	・現在当該ゼミ履修中の現3年生 ・「2つ目のゼミ」として応募する現1～3年生	レポート	提出方法	メール送付 miyashita@ kokugakuin.ac.jp	現在の日本の政治をどう評価するか	(書式)自由（ただしWordファイルかPagesファイルでメール添付提出） (字数)1,200字程度
			締切日時	1月12日(金)19:00		
		面接	1月18日(木)14:40集合		若木タワー8階 0810 研究室	現ゼミ生はレポート・面接ともに免除

4. ゼミ内容

[【目次に戻る】](#)

教員名	上神 貴佳
演習テーマ	歴史としての平成と日本政治
演習内容	<p>平成も約30年をもって、令和という新たな時代を迎えることになった。歴史としての平成一をどのようにとらえればよいのだろうか。とくに昭和との関連で平成の政治や経済、社会の課題を理解することを試みつつ、次の時代を展望してみたい。</p> <p>近年、平成一を振り返るさまざまな書籍が出版されている。本演習の教科書としては、小熊編（2019年）などを用いることにする。教科書の読破は、受講生に求められる最低限の課題である。複数のテキストを読み比べつつ、本演習のテーマ（歴史としての平成と日本政治）について、自分なりの理解を得られるように、各自が学習を進めてもらいたい。</p> <p>本演習の進め方については、グループに分かれて、報告班と質問班を交互に担当することを想定している。また、いずれの担当になるかによらず、毎回、参加者全員がレジュメを提出する。演習の最後には、各自が本演習のテーマに沿って、レポートを作成して提出してもらおう。</p>
教科書	小熊英二（編）『平成史【完全版】』河出書房新社，2019年。
参考文献	薬師寺克行『現代日本政治史』有斐閣，2014年。 佐藤優・片山杜秀『平成史』小学館，2018年。 など
備考	

[【目次に戻る】](#)

教員名	小原 薫
演習テーマ	現代日本を取り巻く政治の思想と問題
演習内容	<p>今、我々を取り巻く政治、社会の状況は大きな転機を迎えている。ウクライナ問題、毎年続く気候変動の弊害、安全保障、そして、2025年問題も大きな論点となっている。その中で、我々は何を選択するのか。今の日本を取り巻く政治、社会の問題について、その背景の思想・構造を含めて議論をしていく。</p> <p>前期は、岩波新書を中心に講読し、討論を行う。後期は、それぞれが関心のあるテーマについて調査し、中間発表を行い、最終的にレポートにまとめることを目指す。</p> <p>無断欠席は認めない。レポート作成のために、合宿を行うこともあるので、課外の活動にも関心のある学生の参加を求める。</p>
教科書	指定しない
参考文献	指定しない
備考	

[【目次に戻る】](#)

教員名	菊田 真司
演習テーマ	「能力主義」を考える
演習内容	<p>競争に関する平等を議論する場合に、「機会の平等」と「結果の平等」という考え方があります。この考え方を講義で説明すると、「結果の平等」よりも「機会の平等」の方がより重要であると答える人がかなりいます。その理由は、人間の生まれながらの能力の違いによる扱いの差異は正当な区別であり、「機会の平等」が実現すれば、その人が本来持っている能力を正当に評価することができるからだ、ということのようです。しかし、それは本当でしょうか？その人の「生まれながらの能力」とは何で、それはどのようにすれば「正当に評価」することができるのでしょうか？</p> <p>能力に基づいて、人間の扱い方の違いを肯定する考え方を能力主義(メリットクラシー)といいます。簡単に言えば、能力の高い人が高い評価を受け、能力の低い人が低い評価を受け、それに応じた報酬(入学資格とか所得とか)を得ることは正当だ、という考え方です。しかし、現代の政治哲学者の多くは、この考え方に否定的です。それはなぜでしょうか？</p> <p>今年度の演習では、みなさんになじみの深い教育の問題を出発点に、能力主義という考え方が持つ問題点を検討します。その上で、能力主義が正当なものとして考えられることによって、個人や社会にどのような影響が及ぶのかを考えていくことにします。</p> <p>演習は、指定されたテキストを読み、担当者が報告した後で、全員で討論する形で行われます。演習参加者は、これに加えて、自分の好きなテーマについて論文を執筆してもらい、論文報告会で報告してもらいます。論文は、基本的に演習時間外に執筆してもらいます。</p> <p>選考にあたっては、議論に積極的に参加する意欲のある人を優先します。</p>
教科書	<p>松岡亮二、『教育格差』、ちくま新書、2019年</p> <p>リチャード・ウィルキンソン、ケイト・ピケット、『格差は心を壊す 比較という呪縛』、東洋経済新報社、2020年</p> <p>マイケル・サンデル、『実力も運のうち 能力主義は正義か』、早川書房、2021年</p>
参考文献	<p>本田由紀、『教育は何を評価してきたのか』、岩波新書、2020年</p> <p>中村高康、『暴走する能力主義』、ちくま新書、2018年など</p>
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・面接当日に都合が悪くなった場合には、karita@kokugakuin.ac.jp までメールで申し出て下さい。質問もこちらのアドレスまで。 ・「政治哲学入門」を履修済み・履修中・履修予定であることが望ましいです。

[【目次に戻る】](#)

教員名	坂本 一登
演習テーマ	戦後日本の安全保障
演習内容	<p>近年、日本の安全保障をめぐる、関心が高まっている。また、ウクライナ戦争によって、戦争というものが過去の遺物ではなく、改めて現代でも起きうるものであることが明らかになった。それでは、戦後の日本は、安全保障について、どのように考え、どのように対応してきたのだろうか。まず、戦後政治のなかで、憲法9条をふまえて、安全保障がどのように議論され、あるいは議論されてこなかったかを概観したい。つぎに、戦後日本の安全保障に深く関係する日米安保条約と、安保条約の実務規定である「日米地位協定」について、その功罪を考える。最後に、東アジアにおける最大の脅威となっている中国の行動原理について、中国の内側からその対外ルールを考察し、内在的理解を深めたい。以上、戦後日本の安全保障について、日本の戦後政治という歴史的な文脈を縦軸に、アメリカと中国という国際的文脈を横軸に、立体的に分析することを通して、今後の世界を展望することを目標とする。</p> <p>前期は文献講読（各回報告者1名担当）、後期はゼミ論の作成。無断欠席、厳禁。前期の報告と後期のゼミ論作成が、単位取得の必要条件である。</p>
教科書	<p>境家 史郎：戦後日本政治史-占領期から「ネオ55年体制」まで（中公新書） 千々和 泰明：戦後日本の安全保障-日米同盟、憲法9条からNSCまで（中公新書） 山本 章子：日米地位協定－在日米軍と「同盟」の70年（中公新書） 益尾 知佐子：中国の行動原理－国内潮流が決める国際関係（中公新書）</p>
参考文献	
備考	

[【目次に戻る】](#)

教員名	佐藤 俊輔
演習テーマ	国際秩序の変動とその行方
演習内容	<p>この演習では、大きく3つのことを行います。ひとつは、演習全体のテーマに沿った文献の輪読と討議です。演習で用いる文献は毎年変化するものの、その一貫した主題となっているのは、「現代の国際秩序とその変化」についての考察です。例えばグローバル・サウスの存在感の高まりということが言われるようになる中、近年はリベラルな国際秩序の揺らぎということが議論されてきました。本演習では、抽象的なレベルではそのようなりベラルな国際秩序の揺らぎやグローバル・サウスの高まりということを主題としたり、より具体的なレベルではヨーロッパの国際政治や、ロシア・ウクライナ戦争等を主題とするなどしてゼミでの議論を行います。</p> <p>もうひとつは、班に分かれての共同研究です。これは、各人の問題関心を出してもらったうえで、ある程度問題意識の近い参加者同士でテーマを選び、研究・発表をしてもらうものです。令和5年度には、ロシア・ウクライナ戦争、エネルギー、台湾、アジアの安全保障などがその主題となりました。</p> <p>三つめは、個々人の問題関心による演習論文の執筆です。演習論文は一年を通して完成させますが、まず前期の間に問題意識を発表してもらい、後期にはより完成した形での途中報告を行います。参加者から相互にフィードバックを得ながら、後期の終了時までには自分の問題意識に即した論文の完成を目指してもらいます。そのテーマは、必ずしも演習全体のテーマに合わせる必要はなく、地域的にもヨーロッパ、アジア、アフリカ、アメリカなど多様であり得ますし、経済、環境、人権やSDGsのような主題を考えて頂いて構いません。</p>
教科書	開講時に指示します。
参考文献	<p>現在予定している文献は以下。（開講時に他の文献を挙げることもあります。）</p> <p>森聡編著『国際秩序が揺らぐとき—歴史・理論・国際法からみる変容』千倉書房、2023年 広瀬佳一『現代ヨーロッパの国際政治』法律文化社、2023年 黛秋津編『講義 ウクライナの歴史』山川出版社、2023年 など</p>
備考	文献については、原則としてそれぞれの書籍から論文を抜粋したものを輪読する形をとりますが、学期毎に1冊ほどは購入して頂くことが必要となります。

[【目次に戻る】](#)

教員名	芝崎 祐典
演習テーマ	国際関係論／国際関係史
演習内容	<p>前期は国際関係論や国際関係史に関する文献を輪読します。割り当て箇所を発表してもらい、それをもとに参加者全員で討議します。読んでもらう課題文献の分量は少なくなく、密度も高いものなので、積極的に勉強したい学生を歓迎します。</p> <p>輪読する文献は年度によって異なりますが、政治、経済、文化、環境などを歴史的視座から論じたものの中から選んでいます。</p> <p>後期は参加者各自が設定した個人研究テーマについての発表や、各自で選択した文献に基づいた報告を中心に行います。個人研究テーマ設定は前期に扱う共通テーマの範囲内である必要はなく、広く国際関係論や国際関係史のなかから関心のあるトピックを自由に探してもらいます。これについて各自がリサーチし、年度の最終に各自の研究テーマをゼミ論（研究論文）にまとめて提出してもらいます。テーマ設定や研究の進め方、論文の書き方などの方法論について随時指導します。</p> <p>（参加人数によっては、後期も文献に基づいた討論を行います。）</p>
教科書	開講時にご案内します。
参考文献	適宜紹介します。
備考	

[【目次に戻る】](#)

教員名	羅 芝賢
演習テーマ	現代日本行政
演習内容	<p>今年度は行政の専門性に着目します。行政サービスの拡大とともに専門性を高めてきたとされる行政組織は、実は必ずしも専門家の育成にはつながらない人事制度を採用していたり、高い専門性を必要とする業務を非正規化していたり、不確実性のリスクに対応するために行政の外部の専門家へと責任を転化したりします。そうしたことがなぜ起きているのかについて、文献の購読を通じて理解を深めていきます。</p> <p>前期は、文献輪読を通じて、報告の仕方、コメントの仕方、参考資料検索の仕方などを身につけることを目標とします。後期は、輪読を完了した後、ゼミ論文の完成を目指して研究を行い、論文報告会を開催します。</p>
教科書	藤田由紀子（2008）『公務員制度と専門性』専修大学出版局 上林陽治（2021）『非正規公務員のリアル—欺瞞の会計年度任用職員』日本評論社 牧原出・坂上博（2023）『きしむ政治と科学—コロナ禍、尾身茂氏との対話』中央公論新社
参考文献	適宜紹介します。
備考	資料収集の仕方を学ぶため、国会図書館や公文書館への「遠足」も予定しています。

[【目次に戻る】](#)

教員名	藤嶋 亮
演習テーマ	ナショナリズムの現在・過去・未来
演習内容	「グローバル化」の時代といわれる今日においても、ナショナリズムは弱まる気配はなく、むしろその影響力を増しているように見られます。また、ナショナリズムは、日常生活での情緒・感情と結びついた現象（スポーツでの代表チームの応援など）であると同時に、国際政治を左右するような高度な原理という多面的な性格を持ち、そのあらわれ方も時代や地域によって大きく異なります。本演習では、主に政治現象としてのナショナリズムに焦点を合わせ、その歴史の変遷や多様なあり方、今後の展望などについて考察してみたいと思います。授業の進め方としては、前期はナショナリズムをテーマとした必読の新書・概説書、後期はナショナリズム論の古典的文献を全員で読み進めます。後期はさらに、参加者が関心を持った個別テーマの報告を行います。また、初回の授業時に、各回の担当班を決定し、第2回目以降、発表と全員が毎回事前に提出するコメントに基づき、内容の確認や検討、討論を行います。取り上げるテキストはいずれも骨太の内容であり、関係するテーマ・領域も多岐にわたりますので、自分なりの関心・問題設定に基づいて、毎回の演習に臨む姿勢が期待されます。
教科書	塩川伸明『民族とネーション』（岩波新書、2008年）、藤原帰一『戦争を記憶する』（講談社現代新書、2001年）、オリヴァー・ジマー『ナショナリズム 1890-1940』（岩波書店、2009年）など。
参考文献	授業の中で適宜紹介します。
備考	

[【目次に戻る】](#)

教員名	宮下 大志
演習テーマ	「日本の政治、日本の民主主義、そして日本の未来、どうしよう？」
演習内容	<p>日本の政治、日本の民主主義、そしてこれからの日本のあり方について論じてみたいと思います。</p> <p>あなたは、現在の日本の政治、そして（ちょっと抽象的になってしまいますが）日本の民主主義についてどう思っているのでしょうか？</p> <p>また社会の状況としても、格差問題、女性の権利の問題などをどうするべきか、問いかけられている状況ではないかと思いますが、どう考えますか？</p> <p>どちらについても、人によって評価はさまざまでしょう。それが現状だと思います。</p> <p>そこで来年度のゼミでは、この日本の政治・民主主義さらには日本の社会について、多様な意見を持った人に集まってもらい、どう評価すべきか、今後はどうなるのが望ましいかなどを論じてゆきたいと思います。</p> <p>そしてそのために、過去の日本の政治を検討したり、現在の問題点を考えたり、今後のあるべき姿を議論したり、ということをおこなう予定です。</p> <p>そしてその際には、多少は欧米との比較や理論的考察も盛り込めたら、とも考えています。</p> <p>なお、「現在の日本の政治をどう評価するか」というテーマで、自分なりの今の日本の政治についての評価を記したレポートを期日までにメール添付で提出してください。</p> <p>現ゼミ生は選考を免除します。</p>
教科書	開講時に指定します
参考文献	必要に応じて紹介します
備考	<p>面接は、対面での面接としたいと思います。個別面接ですので、全体としては1/18(木)の14:40開始ですが、その時間に集合していただいた上で、個人個人の面接時刻を指定します。</p> <p>面接の日時にどうしても都合がつかない、あるいは開始時間を配慮してほしい（「この時間に授業があるので違う日時に設定してほしい」「15:15には大学を出なければならないのでその前に面接してほしい」など）場合は、レポート提出の際のメールで知らせてください。メールでのやりとりで相談させていただきます。</p> <p>なお、面接は一人15分ほどを予定しています。ですので、応募者が例年になく多くならない限り、当日の対面での面接は遅くとも16時には最後の面接を終えられるかと思っています。</p>